

団体ヒアリング結果一覧

参考

No.	記入者の氏名	所属団体名を入力してください。	所属団体の活動内容を入力してください。	所属団体の課題を入力してください。	条例案の名称について、ご意見や具体的な名称等があれば入力してください。	あなたにとって、コミュニケーションとは何ですか？
1	森本 真一郎	精華町商工会	商工業者の発展に伴う、社会一般の福祉の増進に資する事業	会員減少 後継者不足(事業承継)	一目瞭然な名称が良い。	お互いを知る為に。相手への理解や自信を知ってもらう為。
2	相馬 裕一	京都府立南山城支援学校	障害のある児童生徒の学校教育	インクルーシブに向けた取組	つながるまち精華町「言語としての手話と豊かなコミュニケーション促進」条例	人が豊かに暮らすためになくてはならないもの。
3	中 英里香 (山代、永井)	社会福祉法人相楽福祉会	障害者総合支援法に基づく、生活介護、就労継続支援B型、グループホーム、ホームヘルプ、ショートステイ、相談支援等の事業を運営しています。	約100人の障がい当事者に普段ご利用していただいています が、グループホーム定員38名で、グループホームに入居していない方は自宅でご家族と暮らしています。当事者ご本人・ご家族ともに歳を重ねてこられ、グループホームにお住まいでない、約60名の方々の将来の暮らしを支える仕組み作りが大きな課題だと考えています。その他、人材確保や育成、法人の財政的な課題などもあります。		共に生きるために、共有したり合意形成したり悩んだり、日々の確認や見通し、安心感、思いや考えを言語的、非言語的手段を用いてコミュニケーションをとっている、と思います。昨今、「意思決定支援」がよく取り上げられていますが、意思決定に至るまでの意思表示、意思表出において、ご本人が本心や思いをスムーズに出せることができるよう、普段からの安心感や快適さが重要だと考え、そのような関わりをしたいと考えています。
4	中本 千晶	精華町要約筆記サークル「ひまわり」	○相楽中途失聴・難聴者協会の定例会・役員会 ○精華町内の行事、また相楽地域の行事での要約筆記(文字による情報保障)活動。	○要約筆記者の数を増やすこと(とくに若い世代の要約筆記者を育成し、長く続けてもらえるようにする) ○相楽地域で、京都府要約筆記者資格試験につなぐ養成講座を開く。(京都府要約筆記者養成講座・前期見合い等)		○生きていく上で欠かせないもの ○自分の知識を豊かにするもの
5	西岡 保	相楽中途失聴・難聴者協会	相楽地域の市町村に居住または勤務 の中途失聴者、難聴者(以下、難聴者という。)がお互いに手をつなぎ励まし合って、心身ともに豊かな生活を送れるよう努めることとし、会員の住み良い社会を目指して、他の障害者団体と協力して会の運営を進める。 また、会員が気楽に社会参加ができるように、リクリエーションや懇談会などを行うと同時に、行政機関など関係団体に対し福祉の増進に関する協力を要請する。	○会員の高齢化 ○東部地域会員なし ○会員数が増加しないこと ○会員の例会時の送迎	手話は言語、障害を持つ個々人に応じコミ方法を選択できる 旨明記	私は中途失聴者であり、人生の半ばでコミュニケーション手段が奪われる経験を有しています。 音声のコミュニケーションが中心の現在社会において、音声コミュニケーション手段が奪われること。これは本当に辛く、悔しく、悲しいものでした。自身のところが、その事象についていけない。ところが病んで、何もやる気がしない長い時期を経験、生き死にも考えたりしました。 その後、手話や要約筆記、音声文字変換アプリ等を同じ障害を持つ仲間や支援いただける方々から教えていただき、音声以外のコミュニケーションで不安定な聞こえを安定させる方法、いわゆるトータルコミュニケーションを知ってから、徐々に明るく元氣を取り戻した次第です。今は、難聴になる前より元氣と言えるくらいにまですました。 こういった経験を持つ当事者であるが故に、私と同じ経験をする方を一人でも少なく、悩む期間を少しでも短くしたいという思いから難聴者福祉向上活動をライフワークとしています。 私にとってのコミュニケーション、人にとってのコミュニケーション、これは「生きていく上でなくてはならないもの」だと思います。人は一人では生きれない、社会の一員として生きていく。お互いの意思が通い合えるということは、最大の喜びだと思います。
6	岩井 武志	相楽ろうあ協会	○手話講師活動 ○相楽ネット要望活動 ○情報交換 ○たんぽぽ()への参加	○会員の高齢化 ○高齢化による送迎の必要性 ○手話通訳派遣の制度上の制約 ○無人駅の問題 ○住民の手話理解の不足等	手話言語の重要性を認識してもらう。「手話言語条例」が良い、情報コミュニケーション支援という言葉の混ぜると、手話言語自体の重要性が理解されない懸念がある。	手話を通じた交流を確保し、それを広めていくこと、手話の普及はろうあ者と聴者との総合理解を深める為に重要な要素
7	松本 良人	視覚障害者協会相楽支部	定期的な交流会 課外活動等	○会員の減少 ○会員の高齢化		
8	藤山 美登里	手話サークル「たけとんぼ」「めばえ」「相楽通訳者会」	手話サークル:聴覚障害者と共に言語である手話を学び、聴覚障害者の理解を深める活動。 相楽通訳者会:相楽地域の手話通訳者の団体、相楽センターと連携して通訳活動のケース検討や技術の研鑽などによりより良い通訳活動を目指している。聴覚障害者がおかれた諸問題などの社会情勢の学習	どちらの団体も高齢化と次の世代の引継ぎなど、持続可能な活動に課題がある。若い世代のサークル活動もあるが就労や子育てでサークルに参加しにくい、継続できない等の課題がある。	手話が言語であると明記してほしい	①人とのつながり ②言語 ③人間関係 ④相手を知ることができる ⑤必要な情報が得られる ⑥生きていくうえで必要 ⑦気を配る ⑧自分の考えを分かってもらう ⑨いろんな人と話す事により情報が入ってくる、自分も情報発信できる、コミは双方向 ⑩大切なもので命だと思う ⑪コミができれば情報不足となり仲間外れにつながる ⑫勇気を出して自らコミを取っている
9	長山 綾	相楽聴覚言語障害センター	聴覚障害をベースとした方々の相談支援、意思疎通支援、手話通訳や要約筆記等の担い手の養成、啓発など、精華町はじめ相楽5市町村より事業を委託されている	○聴覚障害という理解が中々広まらない(一事業所だけでは限界がある) ○聴覚障害者が定期的集える場所の事業がない ○意思疎通支援の担い手と高齢化 ○高齢聴覚障害者の在宅介護ができるヘルパー養成福祉と医療、教育、労働、司法等の連携	「手話言語条例」はぜひ入れてほしい(名称案) 互いのコミュニケーションを認め合い、共に育み続ける手話言語条例	社会生活を送るために必要な手段 音声・書記言語だけでなく、非言語を含めてそれぞれが行っているコミュニケーションは尊いものである。
10	柳田 大樹 (霜田)	特定非営利法人プラッツ	生活介護、グループホーム、就労継続支援B型の事業において、カフェ運営、クッキー製造販売、小物販売	障害の特性上皆が集まらない		難しい。緊張する。相手の気持ちがわからない。筆談でしたい。短く伝えて欲しい。知っている話題なら楽しい。
11	福田 智津子	点字サークル「たち」	本の点訳 点訳本を図書館に収める	メンバーの減少と高齢化 活動の縮小 小、中学校の子供を対象に点字について知ってもらう体験学習の実施ができなくなっている。ボランティア養成講座の依頼を受けられなくなっている。		
12	南 八重子	朗読ボランティアひびき	町広報誌「華創」「議会だより」「社協だより」等を目が不自由な人のためにテープに吹込む活動	現在利用者が1名のみそのためやりがいを感じない。利用者数が増えてほしい。利用者さんとの接点を持ちたい。		